第二部　**評論一　日本文化私観**　坂口安吾（さかぐちあんご）

▼漢字・語句▲

1　次の傍線部の漢字の読み仮名を書きなさい。

①　板塀（　　）　②　高架（　　）　③　郷愁（　　）　④　艦隊（　　）

⑤　鉄塊（　　）　⑥　光輝（　　）　⑦　累積（　　）　⑧　霊魂（　　）

2　次の傍線部の片仮名を漢字に直しなさい。送り仮名が必要なときは書きなさい。

①　エットウする（　　）　②　鳥のツバサ（　　）

③　五重のトウ（　　）　④　敵がセマル（　　）

⑤　島にワタル（　　）　⑥　中学生のコロ（　　）

⑦　ホウガン投げ（　　）　⑧　サルの集団（　　）

3　「模倣」（二九〇・3）の対義語を書きなさい。

（　　）

4　次の語句を使って短文を作りなさい。

①　変哲もない（二八五・16）

（　　）

②　強いて（二八六・11）

（　　）

▼要点の整理▲

1　次は本文の内容を段落ごとにまとめたものである。空欄に本文中の語句を補いなさい。

●第一段落（初め～二八五・5）…小菅（こすげ）刑務所

大建築物である小菅刑務所には①〔　　〕というものもなく、どこから見ても刑務所以外の何物でも有り得ない構えである。しかし、「僕」はその美しさに心を惹（ひ）かれた。

●第二段落（二八五・6～二八六・8）…小菅刑務所とドライアイス工場

「僕」は、ドライアイスの工場に奇妙に心を惹かれた。工場には一切の美的考慮がなく、必要に応じた設備だけで一つの建築が成り立っている。工場は「僕」の胸に食い入り、遥（はる）か②〔　　〕につづいていく大らかな美しさがあった。

●第三段落（二八六・9～二八七・16）…三つのものの美しさ

小菅刑務所とドライアイスの工場と軍艦は、必要のみが要求する③〔　　〕の形に出来上がっている。すべては、ただ必要ということであり、そしてここに何物にも④〔　　〕三つのものが出来上がった。

●第四段落（二八八・1～二八九・3）…文学、芸術の大道

やむべからざる必要にのみ応じて、書きつくさなければならない。終始一貫ただ「必要」の

み。それが散文の⑤〔　　〕であり、小説の⑥〔　　〕である。問題は、汝（なんじ）の書こうとしたことが、真に必要なことかということだ。

●第五段落（二八九・4～終わり）…真実の美

すべては実質の問題だ。本当の物ではないものは⑦〔　　〕なものであり、それをこわしても我が民族の文化や伝統は決して亡（ほろ）びない。西洋のものを模倣しても、我々の文化や伝統は健康である。真に生活する限り、猿まねを羞（は）じることはない。それが⑧〔　　〕の生活である限り、猿まねにも独創と同じ優越がある。

▼読解のポイント▲

1　「この刑務所ほど僕の心を惹くことがなかった」（二八五・4）とあるが、筆者が心を惹かれた理由を簡潔に説明しなさい。

（　　）

2　「これに似た他の経験」（二八五・6）とあるが、つまり、どんな経験か。次の文の空欄に本文二八六ページの語句を補いなさい。

建物によって（　／　）に導かれた経験。

3　「奇妙に僕の心を惹くのであった」（二八五・15）について、次の問いに答えなさい。

⑴　「僕」は、ドライアイスの工場のどういう点に心を惹かれたのか。次の文の空欄に本文二八六ページの語句を補いなさい。

①（　／　／　／　）というものが一切なく、ただ②（　／　）に応じた設備だけで一つの建築が成り立っている点。

⑵　「僕」は、ドライアイス工場にどんな美しさを感じたのか。本文二八六ページから十八字で抜き出しなさい。

（　　）

4　「僕の郷愁をゆりうごかす逞（たくま）しい美感」（二八六・10）とあるが、筆者が小菅刑務所とドライアイスの工場に感じた「美感」について、法隆寺や平等院と比較して述べた一文がある。その一文を本文二八六ページから探し、初めと終わりの五字を抜き出しなさい。

（　　）～（　　）

5　「この三つのものが、なぜ、かくも美しいか。」（二八七・8）とあるが、「僕」は「この三つのもの」が美しい理由をどう考えているか。

（　　）

6　「この必要のやむべからざる生成をはばむ力とは成り得なかった」（二八七・15）とあるが、はばむ力となるものは何か。説明しなさい。

（　　）

7　「実質からの要求を外れ」（二八八・12）とあるが、どういうことか。次の中から適切なものを一つ選んで丸をつけなさい。

ア　義務として書くということ。

イ　書くことを継続するということ。

ウ　書く必要があるということ。

エ　書く必要はないということ。

8　「応じ切れないギゴチなさ」（二八九・5）とあるが、誰の動きを表しているか。本文中から四字で抜き出しなさい。

（　　）

9　「そのことによって決して亡びはしない」（二八九・14）とあるが、その理由を簡潔に説明しなさい。

（　　）

10　「我が民族の光輝ある文化や伝統」（二八九・14）とあるが、それが健康であるためには、何が健康であることが必要なのか。本文二九〇ページから五字で抜き出しなさい。

（　　）

11　「猿まねにも、独創と同一の優越があるのである」（二九〇・7）とあるが、筆者がこう考える理由として適切なものを次の中から一つ選んで丸をつけなさい。

ア　猿まねであっても、それが本物に肉迫するものであれば、それはもはやまねではなく、独創といえるものになっているから。

イ　猿まねであっても、まねている対象が評価の定まっているものであるならば、独創と同じ価値を獲得することができるから。

ウ　猿まねであっても、それが真に必要であり、そこに真実の生活があれば、必ずそこにも真の美が生まれ、独創と同じことになるから。

エ　猿まねであっても、まねている対象が真の生活に根ざしたものであるならば、まねであっても独創に近づくことができるから。

▼まとめの問題▲

1　「あらゆる芸術の大道なのだ」（二八八・14）とあるが、どういうことが「あらゆる芸術の大道」なのか。簡潔に説明しなさい。

（　　）

2　「スマートの身体でなければならぬと極（き）まっていた」（二八九・6）とあるが、これだけでは「真に美なる物とはなり得ない」と筆者が考える理由を簡潔に説明しなさい。

（　　）

3　筆者の美に対する考えをまとめなさい。